

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は学び、学びは仕事
仕事は学び、学びは仕事
学びは遊び、遊びは学び
学びは遊び、遊びは学び

大浦総合研究所

大浦勇三 著

続・ビジネス梁塵秘抄（二）

目次

はじめに

第一部

〔遊〕

遊びをせんとや生れけん

第二部

〔献〕

仕事をせんとや生れけん

第三部

〔学〕

学びをせんとや生れけん

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄(りょうじんひしょう)」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁(はり)の塵(ちり)も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとやまれけん、

遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。 (岩波文庫版)

が有名です。

二〇一二年から二〇一四年の三年間、「ビジネス梁塵秘抄(一)〜(十)」全一〇巻(九〇〇ページ・二七〇〇文)を刊行させていただきました。この三年間で日本はもとより、世界の景色は大きく変わりました。日米欧を中心に、それまで国や地域を支えていたさまざまなインフラ・制度の劣化が散見されるようになっていきます。財政の悪化をはじめとして、改革のためのルール・規制が複雑化し、身動きがとれなくなってきたこと、国民一人ひとりが能動的・自覚的に課題を解決して自律するという意識が衰退し、国や周囲への依存意識が強くなっていること、などが指摘されています。

日本人は三・一一で、あり得ないことも起こること・見たくないものは観えないこと・すべては変わることを経験しました。一方、世界では二〇四五年問題が浮上、一台一〇〇〇ドル程度のPCの情報処理能力が全人類の能力を超えるとの予測も台頭しています。人工知能が人間の意思を介さずに仕事をする時代の予感。人工知能を敵ではなくパートナーとして連携しながら、人間の思考力・発想力を強化すべきという課題。人工知能は舗装道路では強力でも、石ころだらけの砂利道では人智の出番も多いはず。世界が合理的・効率的な方向に動き、その大きな流れに太刀打ちできない以上、やりたいこと・やれること・やるべきことの重なる領域を徐々に広げながら前進するしかありません。ドラッカーだけでなく、ピカソからアインシュタインまでを内包するのが二一世紀の経営学。固有の文化・価値観を生かしたイノベーションには組織文化風土の深耕がものをいいそうです。

本書は、「ビジネス梁塵秘抄」に続き、「遊(遊び)」「献(仕事)」「学(学び)」に対する深い思いを無我夢中で纏めさせていただきました。重ねてご寛恕ください。

東京・神楽坂にて

大浦 勇三



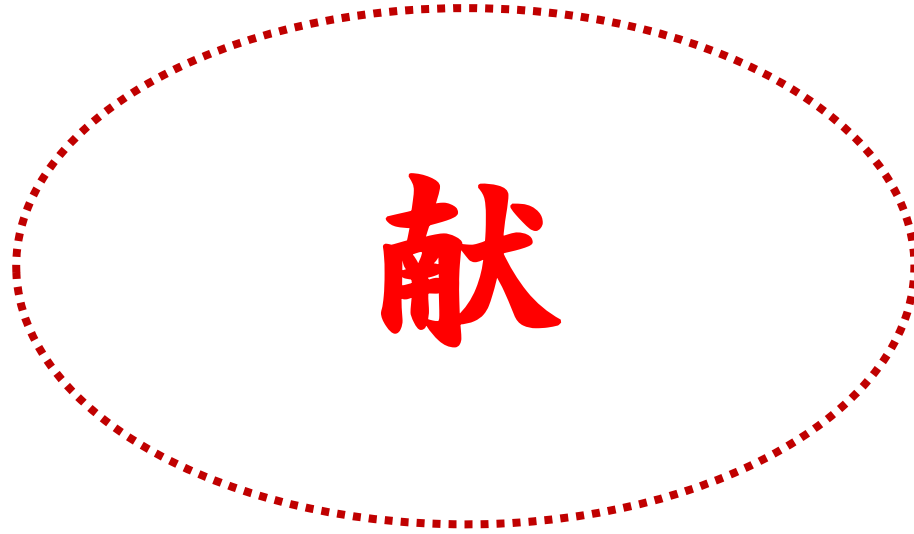
遊
びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 元国防長官マクナマラが語るベトナム戦争の教訓 共産主義の危険の過大誇張
ベトナム人のナシヨナリズムの強さへの過小評価 米政府内での専門家の不在
ハイテク兵器における限界 弱みを見せなかったための議会との率直な議論の回避
国民の支持の欠如 国際問題即決の難しさの無理解 トップ間での議論の不足

● リベラルアーツの重要性 ものの見方・人間の見方・状況の把握
どんな判断を下すか それをまとめて・他者に伝えて・説得する
限られた時間の中で、是非ともやるべきことをやるかが分水嶺
先人が考えた内容の反復 自分の考えの明白で効果的なロジック

● あまり自分の細工におぼれない 事実には忠実になる
世界の動きを見るのではなく世界の動きに関わる心意気
不器用を一つの武器にする 一人で死ぬ孤独に慣れる
ウソは常備薬で真実は劇薬、とは心理学者・河合隼雄



仕事をせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粹

● ジャックウエルチの株主への手紙(二) 改革は勝利へのワークアウト
競争優位性が境界のない企業を創造する 小企業精神の融合とその成果
能力を無限に開発する三条件 境界のない行動・スピード・ストレッチ
三つの行動規範の徹底 和・漢・洋の精妙な複合をめざすことを最重視

● ビジネス展望 科学・技術・芸術・デザイン・ビジネスを一体化
人より速く走るのではなく、観客も計器もないトラックの中を走る
生命に学ぶ 要素技術から生命のあり方を教えるシステム技術へ
スキルセットとマインドセットの統合 北斎の色は藍・茜・余白

● エンタプライズ・リスクマネジメントへの強化 プロセスを簡潔にする
プロセスは独自性をもつ リスクを組織全体から抽出・解析・特定する
利益創出機会とリスクをあわせて検討 風土改革を踏まえたアプローチ
教育を究極までやって先入観を解き放つ 科学に支えられた芸術にする



学びをせんとや生れけん

*二〇ページ、六〇文より
一ページ、三文を抜粋

● 知識資本主義は訓練から学習へ 具象と抽象の世界の間でどう折り合うか
具象では階層的世界からカオスの世界へ 汎用的知識から直観的な知識へ
抽象では論理的世界からコミュニティ世界へ 分析的知識より概念的知識へ
意味を突き詰めるだけでは息が詰まる 無意味も共に考える、と小林秀雄

● 戦略思考とは生きて学ぶロジック 歴史から学び他者にも学ぶ
戦略目標&実行計画 永く生き延びるには闘う相手を持つこと
生活や学習では対象の範囲を拡大・縮小 遊び心と知的好奇心
鯉を描くのでなく鯉を見た感動・感動の色を描く、と棟方志功

● 組織活性化(二) アイデア・才能・経営資源の社内市場を設ける
組織内外の力を動員できるように新たなマネジメント手法を考案
絵画は二次元 三次元に変換する詩的想像力 詩こそ資本主義に
何が起きているかでなく何が起こりそうかが決め手、と萩本欽一

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）

oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所 代表

<http://www.iii.jp.or.jp/oura/>

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。

米国大手コンサルティング会社アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。主担当領域は、経営改革、経営戦略&情報通信技術（ICT）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント&イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング&メンタリング、プロジェクト&プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。

主な著書には、

- ・「ビジネス梁塵秘抄（一）～（十）」（全十巻）（大浦総合研究所）
 - ・「イノベーション・ノート」（PHP研究所）
 - ・「IT技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
 - ・「よいコンサルタンの見分け方、かかり方」（清語舎）
 - ・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
 - ・「図解ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社） ほか
- その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「**続・ビジネス梁塵秘抄（二）**」**（抜粋）**

著者 大浦勇三

二〇一五年二月 初版 第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四 松戸市新松戸七・五四三

◎大浦総合研究所

大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。